

第2回 浜田市総合振興計画審議会議事録	
日時	令和8年6月9日(火) 18時30分から20時25分まで
場所	浜田市役所 本庁舎4階 講堂ABC

発言者	議事内容
▽開 会	
林会長	<p>ただいまから第2回浜田市総合振興計画審議会を始めます。第1回審議会は、去る5月8日に開催し、三浦市長より諮問をいただくとともに、計画の策定方針についてご説明いただいたところです。</p> <p>本日は、前回の議論を踏まえ、次第に記載しております議事に沿って進めてまいります。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、本日の委員の出席状況等につきまして、事務局からお知らせいただければと思います。</p>
事務局 (政策企画課長)	<p>本日の委員の出席状況と配布資料の方を確認させていただきます。</p> <p>まず、審議会委員名簿の方をご覧ください。前回、委員の皆様をご紹介させていただきましたが、その中で、浜田市社会教育委員の会から選出いただく委員については、選任中となっております。</p> <p>その後、浜田市社会教育委員の会において選任いただきましたので、ご紹介させていただきます。</p> <p>【岡本委員を紹介】</p> <p>次に、本日の委員の出席状況についてお知らせします。</p> <p>出席委員18名、欠席委員7名となっております。審議会条例で定めております会議の開催要件の過半数を満たしておりますことをご報告させていただきます。</p> <p>【配布資料の確認】</p>
1 協議	
林会長	<p>それでは早速議事を進めさせていただきますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。</p>
<p>【資料1】 前回審議会における主要意見とその対応方針について</p> <p>【資料2】 全体スケジュールについて</p>	
事務局 (さとゆめ)	<p>【資料1、資料2について説明】</p>
(質疑応答)資料1について	
林会長	<p>説明が終わりました。委員の皆様から質疑はありませんか。</p>

栗栖委員	<p>こどもワークショップについて確認させてください。開催時期はいつ頃になる予定でしょうか。</p> <p>こどもの権利条例のワークショップが、今年度当初から7月20日（日）に決まっているため、日程が重なる可能性があるのではないかと考えています。</p>
事務局 (さとゆめ)	<p>対面開催は7月5日（日）を予定しています。また、オンライン版は7月12日（日）を予定しています。</p>
【資料3】第3次浜田市総合振興計画構成（案）について	
事務局 (企画係長)	【資料3について説明】
林会長	<p>説明が終わりました。委員の皆様から質疑はありませんか。</p> <p>【質疑なし】</p>
【資料4】第3次浜田市人口ビジョン（たたき台）について	
事務局 (さとゆめ)	【資料4について説明】
林会長	<p>説明が終わりました。委員の皆様から質疑はありませんか。</p>
(質疑応答)資料3、4、全体について	
長藤委員	<p>資料4の36ページにある、人口減少対策のロジックモデルの部分についてです。このページの数字が、ほかのページと少し異なっているように感じました。</p> <p>例えば、社会増減の現状値について、36ページでは▲362人となっていますが、13ページでは▲476人、34ページでは▲195人となっています。数字に幅があるように見えますので、この違いがどのような理由によるものなのか、また、今後修正されるものなのかについてご説明いただきたいです。</p> <p>また、36ページでは、未婚率を現状維持としながらも、1組の夫婦から生まれる子どもの総数を1.92から2.41に引き上げる想定となっています。これはかなりハードルが高いように感じます。</p> <p>一方で、その前のページでは、未婚率を下げるという趣旨の記載もあったかと思えます。この点について、何か具体的な施策があるのかお伺いします。</p>
事務局 (さとゆめ)	<p>社会増減については、ページによって時点等が異なっており、整合性が十分に図れていない部分があるかと思えます。最終的には、数字の整合を取らせていただきます。</p> <p>また、完結出生児数を2.41とすることについては、確かに高い数値ではありません。ただし、5年や10年で2.41を目指すということではなく、2045年までに段階的に引き上げていく想定で考えています。</p> <p>具体的な施策については、現時点で特筆すべきものがあるわけではありませんが、今後アンケート調査等も実施していく予定ですので、その結果を踏まえ、具体的な施策案を検討していきたいと考えています。</p>

林会長	<p>念のため確認させていただきたいのですが、人口ビジョンについては、現在このような形でご提示いただいておりますが、今後、具体的な資料として公表されるものなのかどうか、確認させていただきたいと思います。</p>
事務局 (企画係長)	<p>人口ビジョンにつきましては、この資料の全てが計画に掲載されるわけではありません。この中から特筆すべき点や要点を整理した上で、計画に掲載させていただくという整理で考えております。</p>
林会長	<p>人口ビジョンとして、別途冊子が作成されるというわけではないのですね。</p>
事務局 (企画係長)	<p>はい、そのようにご理解いただければと思います。</p>
井上委員	<p>資料 39 ページの「ふるさと回帰 1%戦略」について確認させてください。</p> <p>全体で 818 名を卒業見込みとして設定していただいていると思いますが、そのうち島根県立大学（以下、県立大学）が 460 人余りとなっています。一方で、県立大学の学生については、一定割合が県外から来ている学生だと思えます。</p> <p>そうすると、「U ターン」という定義をどのように捉えるのかという点もあると思えます。県立大学の学生の中にも、一定数は浜田出身の学生がいると思えますので、その点も考慮していただけるとよいのではないかと思います。</p> <p>また、同じく資料 38 ページの基本目標 3 では、「帰ってきたくなる浜田のまちづくり」という記載があり、対象が「大学生」ではなく「県大生」と書かれています。</p> <p>ただ、県立大学に在学している浜田出身の学生よりも、県外に進学している浜田出身の大学生の方が人数としては多いのではないかと思います。そのため、県外にいる浜田出身の大学生についても、ターゲットとして明記した方がよいのではないかと感じました。私自身も愛媛県出身ですが、島根に来て愛媛のことはずっと考えています。そうした意味でも、市外・県外に進学している浜田出身の学生に向けた基本目標 3 になればよいのではないかと思います。</p>
事務局 (さとゆめ)	<p>ご指摘のとおり、高校生や大学生の捉え方については整理が必要だと考えています。また、大学生についても、県外から来ている方が多いという実態がありますので、対象者の住み分けや表現の仕方とあわせて、対応する施策についても分けながら今後検討していきたいと思えます。</p>
村岡副会長	<p>具体的に何ページに関してという訳ではなく、全体的な話になるかもしれませんが、婚姻や出生率に関して意見があります。</p> <p>おそらく、自治体の施策でできることには限界があると思っています。賃金やケアの問題、さまざまな家庭像のあり方など、国政レベルで取り組むべき課題が大きく横たわっている中で、市政としてできることを内部で丁寧に整理しなければ、具体的な目標値を掲げても評価がしにくいのではないかと感じました。</p> <p>例えば、産休・育休の取得日数がどのように変化したか、相談機関への相談件数が増えてきたか、各種制度や機関の利用率が伸びてきたかなど、市政で対応できる下位の目標が土台としてしっかり設定されているとよいのではないかと思います。</p>

	<p>出生率そのものは、なかなか短期的に変化が起きないかもしれませんが、市政としての効果は指摘しやすくなるのではないかと考えます。</p> <p>また、これは非常に個人的な話になるかもしれませんが、私自身、総合戦略や人口ビジョンが作られ始めた頃に、ちょうど対象となる年齢でした。当時、計画策定に携わりながらも、「産まなければならないのではないか」というプレッシャーを強く感じていました。</p> <p>当然ながら、産みたいという希望や、ここで育てたいという希望があって初めて、出産という選択につながるものだと思います。しかし、メッセージが強ければ強いほど、当事者にとっては圧力として受け止められる場合もあるのではないかと思います。</p> <p>そのため、責任の所在が女性や若い世代に向かわないように、「こうあるべき」という形を奨励するような言葉にならないようにすることが、今後の見せ方や書き方として必要ではないかと感じました。</p> <p>例えば、432人のマイナスをプラスにするという場合、数字上は432人という単位かもしれませんが、実際には432通りの人生を受け入れるためのキャパシティを浜田市につくるといことだと思います。市政として動かせるのは、そうした施策の部分だと思いますので、最終的にそのような考え方が見える計画になっていくとよいと思いながら聞いていました。</p>
<p>事務局 (政策企画課長)</p>	<p>最初にお話しいただいた出生率、合計特殊出生率を上げていくという点については、ご指摘のとおりだと考えています。</p> <p>これまでも、第2次総合振興計画や総合戦略の中で、市としてさまざまな施策を検討し、進めてきたところです。一方で、副会長がおっしゃったように、市としてできることには限界もあります。全国的な傾向を踏まえると、国を挙げて取り組まなければ難しい部分もあると認識しています。</p> <p>その中で、市として何ができるのかについては、これまでも検討しながら取り組んできました。第3次総合振興計画を進める中でも、当然その視点を持ちながら検討していきたいと考えています。</p> <p>また、全体の目標の下に位置づける下位目標や、具体的にどのような施策を実施するのかについても、しっかり検討していく必要があると考えています。今回、合計特殊出生率2.07という数値をお示ししていますが、これはかなり高い水準であると認識しています。そこに少しでも近づいていくために、市としてどこまで対応できるのかを十分に考えた上で、計画を作成していきたいと思います。</p> <p>また、総合戦略については、国も含めて、女性に出産へのプレッシャーを与えてしまうのではないかという議論が当初からありました。そのため、文言や取組の見せ方についても配慮が必要だと考えています。</p> <p>浜田市としても、そうした点がプレッシャーと受け止められないよう、表現には十分配慮していきたいと思います。むしろ、副会長がおっしゃったように、自然に出産や子育てを希望できるような土台や環境づくりをどのように進めていくかについて、計画の中で考えていきたいと思います。</p>

丸山委員	<p>「浜田市人口動向」の9ページにグラフがあります。年齢構成を見ると、60歳以上、高齢者の自然減という要因も可能性として大きいのではないかと思います。この点については、計画に何か反映されているのでしょうか。</p>
事務局 (さとゆめ)	<p>その点については、現時点ではまだ具体的に落とし込まれているわけではありません。ただし、健康寿命の促進などについては、総合振興計画の中で幅広く対応していくものと考えています。</p> <p>現時点では、具体的な内容まではお示しできていない状況です。</p>
村武委員	<p>資料4ページについてです。目を通した際に少し気になった点があります。</p> <p>「人口ビジョン策定の目的」の中で、①として「浜田市の子どもたちの未来の生活、居場所を守り」と記載されています。この「居場所」という言葉を入れられた意図や、ここでいう「居場所」の考え方についてお聞きしたいと思います。</p>
事務局 (さとゆめ)	<p>「生活」と「居場所」を並列して記載した意図についてですが、「生活」はどちらかといえば、機能面を想定しています。具体的には、商業や医療などです。</p> <p>一方で、「居場所」は、居心地のよい場所やサードプレイスのようなものをイメージしています。人口が減少することにより、にぎわいが減り、そうした場所が失われてしまうのではないかと問題意識があります。コミュニティ的な側面も含めて、「居場所」という少し柔らかい表現を併記したものです。</p>
村武委員	<p>「居場所」という言葉は、私もよく使いますし、本当に必要なものだと思います。</p> <p>先ほどご説明いただいたように、「生活」と「居場所」を並列している理由や、あえてここに「居場所」という言葉を入れた意図が気になっていました。サードプレイス的な場所や、そうした居心地のよい場所は非常に大切だと思いますので、それをここに掲げられた意図について理解しました。</p>
林会長	<p>私も、資料4ページの「人口ビジョン策定の目的」を見た際に、少し気になりました。</p> <p>①「浜田市の子どもたちの未来の生活、居場所を守り」、②「世代が安心して幸せに暮らせるコミュニティを守るため」とありますが、こうした大きな目標のために将来人口をどのように考えるのかという点が、人口ビジョン策定の目的なのではないかと思いました。</p> <p>言葉の問題かもしれませんが、赤字で示されている内容のみを「目的」として示すには、やや説明が不足しているように感じます。今後この表現を使用されるのであれば、補足説明や注記を加えていただくとよいのではないかと思います。</p>
栗栖委員	<p>資料9ページに人口ピラミッドの説明があります。25歳～29歳あたりを見ると、確かに男性よりも女性の方が少ないように見えます。</p> <p>その後の人口流出に関する部分では、男女比の数値がどこかに記載されているのかもしれませんが、若い女性が浜田市から流出しやすい背景について、もう少し確認したいと思いました。</p> <p>先ほどの議論のように、「女性は産むもの」という観点で申し上げているわけではありません。ただ、若い女性が浜田市から流出しやすい背景には、例えば男女の賃</p>

	<p>金格差や、女性が雇用面・賃金面で不利な状況に置かれやすいこと、女性がまだまだ人権的に守られていないなど、さまざまな要因があるのではないかと思います。</p> <p>また、経済的な観点から見ると、一人で暮らしていく場合、将来にわたって独身の女性として浜田市で生活していくことに不安を感じ、県外へ出ていくという選択につながることもあるのではないかと思います。若い女性の流出について、島根県内の他自治体と比べて浜田市は多いのか少ないのか、また、どのようなパターンがあるのかをお伺いしたいです。</p> <p>この年代の女性が、この地域で30代以降も一人で生きていくことは、非常に勇気のいることだという話を伺っています。そのため、この点については、ぜひ丁寧に見ていただきたいと思いました。</p>
事務局 (さとゆめ)	<p>若年層における男女比については、一般的には性別の比率は1対1に近いものと考えられますので、浜田市では男性にやや偏っているという事実はあると思いますが、それが島根県内の他自治体と比較してどうなのかという点については、現時点で手元に数字がありませんので、今後お示しさせていただきたいと思います。</p> <p>統計データはありますので、確認の上、改めてお示しさせていただきます。</p>
林会長	<p>若い女性が暮らしにくさを感じ、地域から流出してしまうということは、さまざまところで指摘されている課題だと思います。</p> <p>そのため、この点については、しっかりと分析する必要があると感じています。</p>
長藤委員	<p>先ほど質問させていただいた、出生率を上昇させるための案について、私なりに少し考えていました。</p> <p>例えば、「妊活しやすいまち」という点をアピールし、都市部でストレスを感じている方々に対して、無農薬の食や空気のきれいな浜田市の環境をアピールし、移住につなげるという考え方もあるのではないかと思います。そのような取組を進めることで、未婚率を現状維持とした場合でも、出生率を上げることができる可能性があるのではないかと感じました。</p> <p>また、質問になりますが、資料4の38ページに示されている基本目標についてです。これと基本構想、政策体系における基本構想との関係がどのようになっているのか、少し分かりにくいと感じました。この基本目標がどのような位置づけになるのか、もう少し教えていただければと思います。</p>
事務局 (企画係長)	<p>妊活しやすいまちに関する取組については、担当部とも十分に協議し、何らかの施策として検討していきたいと考えています。現時点では、具体的な取組について私の方で持ち合わせていないため、詳しくお答えすることはできませんが、今後、何らかの形でお示しさせていただきたいと思います。</p> <p>次に、資料4の38ページに示している基本目標と、基本構想における大きな目標との関係性についてです。まず、基本構想における大きな目標として、人口4万人という目標があると思います。ただし、その4万人という目標を達成しようとしても、やみくもに取組を進めるだけでは、なかなか達成できるものではありません。</p> <p>そこで、大きな目標である4万人を達成するために、その目標を整理し、分割したものととして、基本目標1、基本目標2、基本目標3、基本目標4を設定していると</p>

	<p>いう整理です。大きな目標の一つ下の階層に、より具体的な基本目標を置くイメージで見ていただければと思います。これらの具体的な目標を達成していくことで、最終的に大きな目標である人口4万人に近づいていくのではないかと考えています。</p>
林会長	<p>総合振興計画と、この内容がどこまで連動するのかという点についてですが、いかがでしょうか。</p>
事務局 (企画係長)	<p>総合振興計画の中では、目指すべき人口4万人という目標は基本構想に位置づけられるものだと思います。</p> <p>それとは別に、総合戦略という形で具体的な取組を整理し、その中で資料4の内容を位置づけていくようなイメージではないかと考えています。</p>
事務局 (政策企画課長)	<p>ただいまのご質問について補足します。</p> <p>人口4万人という目標や、人口減少対策に関する内容については、資料3の11ページに示しているとおおり、総合戦略の中に位置づけることとしています。</p> <p>資料3の11ページでは、全体の計画イメージの中で、総合戦略を整理することを示しています。人口目標についても、基本的には「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で、具体的にどのように取り組んでいくのかを記載する予定です。そのため、先ほど申し上げた4つの基本目標についても、総合戦略の中でどこまで示すかは今後整理が必要ですが、目標等を設定・表示した上で、それに基づく取組を掲載していくイメージで捉えていただければと思います。</p> <p>つまり、資料4の38ページに記載している内容等を踏まえたものを、資料3の11ページにおいて表現していくことを現在検討しているということです。</p>
村岡副会長	<p>資料3の5ページにある基本構想の中にも、2045年に関する課題が記載されるということだと思います。2045年という数字が最初に出てくるのは、この箇所という理解でよろしいでしょうか。その場合、この2045年という数字の位置づけを、どのように整理するのが気になっています。</p> <p>基本構想自体の計画期間は8年間だと思いますので、2045年はかなり先の時点になります。将来の人口動向として事実を示すこと自体は必要だと思いますが、急に2045年という数字がここに出てくることを、どのように説明していくのか確認したいです。</p>
事務局 (さとゆめ)	<p>2045年や2100年という数字は、人口ビジョンの中で使用している長期的な時間軸です。そのため、基本構想では、あくまでもそうした長期的な見通しを前提としながら、計画期間である8年後の人口をどのように捉えるか、という表現になるかと思います。</p>
村岡副会長	<p>2045年という数字が唐突に出てくる印象にならないとよいと思います。また、基本構想や計画は、直近で自分たちが取り組める施策や方向性を示すものだと思いますので、長期的な見通しと計画期間内で取り組む内容との間にずれが生じないように整理されるとよいと感じました。</p>
坪倉委員	<p>資料4の38ページについて、2点意見があります。</p>

	<p>検討方針として赤字で、今後必要な施策や事業を検討していくと記載されています。この検討に当たっては、前回の会でも意見が出ていたように、現在の第2次総合振興計画の振り返りが非常に重要だと思います。第2次総合振興計画の中にも、人口減少対策に関する取組が位置づけられていると思いますが、それに対して、これまでの取組がどうだったのかを検証する必要があります。有効でなかった施策が、改めて第3次総合振興計画に盛り込まれても、十分に効果的な施策にはならないと思います。そのため、まずはしっかりと振り返った上で、今後の施策を検討する必要がありますと考えます。</p> <p>もう1点は、資料38ページの基本目標3の代表目標指標案についてです。</p> <p>今後、具体的に検討されることだとは思いますが、大学進学等で市外へ出た方たちが「帰ってきたくなるまちづくり」を考える上で、地域への愛着はもちろん大切だと思いますが、愛着だけでは帰ってこないとも思います。例えば、働く場所があるかどうかなども重要です。そういったことも踏まえて今後検討されることだとは思いますが、愛着だけでは帰ってこないという前提に立って、何を代表目標指標とするのかを十分に考える必要があると思います。</p>
<p>事務局 (政策企画課長)</p>	<p>振り返りについては、前回の審議会でもご意見をいただいた際に、少し回答させていただきました。</p> <p>第2次総合振興計画については、毎年、KPIなどの目標値や取組内容について進捗管理を行い、審議会の皆様にも進捗状況を確認いただいているところです。</p> <p>今年度についても、現時点では次回の審議会に向けて、これまでの第2次総合振興計画基本計画の進捗管理状況等をお示しする予定です。その内容をご確認いただきながら、振り返りについても、しっかり協議させていただきたいと考えています。また、資料3の参考資料の中に、振り返りとして掲載する予定としております。内容については、皆様からご意見をいただきながら整理し、お示ししていきたいと考えています。</p> <p>もう1点、資料4の38ページにある基本目標3についてです。</p> <p>市外へ出られた方が帰ってこられるようにするためには、愛着だけでは十分ではないというご意見をいただきましたが、その点については、こちらとしても同様に認識しています。地域への愛着を持っていただくための教育や仕掛けも大切ですが、それだけではなく、帰ってきたいと思える環境づくりが必要です。仕事や職場の環境、生活環境なども含めて、総合的に整備していくことが重要だと考えています。</p> <p>そうした政策についても、本計画の中で位置づけていきたいと考えていますので、今後整理した内容をお示しした上で、改めてご意見をいただければと思います。</p>
<p>栗栖委員</p>	<p>資料3の15ページの政策体系について意見があります。今回の計画では、「横断的」という視点が重要になると思います。</p> <p>行政が策定する計画は、予算が関係するため、どうしても分野ごと、いわゆる縦割りの見せ方になることは、ある程度仕方がないと思っています。しかし、子ども</p>

	<p>の立場から考えると、子どもにやさしい環境をつくるのは、子育て支援課、学校教育、青少年育成だけの役割ではありません。公共施設を担当する部署も関係しますし、防災の場面で、子どもが災害時に安心して過ごせる空間をどう確保するかという点も関係します。つまり、子どもに関する取組は、本来すべて横断的なものだと思います。特に、こども基本法ができて、全庁的に子どもの権利を守っていこうという動きがある中では、政策分野ごとの整理は予算上必要であっても、各項目において、それぞれの担当課が何をするのか、また市民が何をすることが望ましいのかという視点が必要だと思います。</p> <p>現在の整理はこの形でよいと思いますが、政策目標に向けて、全方位的に具体的に何ができるのかを議論する必要があるのではないかと感じています。</p> <p>私自身も社会教育士ですが、例えば社会教育士がまちづくりセンター等で働いているとして、本当に市の防災計画を読んでいるかという点、必ずしもそうではないかもしれませんが、しかし、地域課題として、それぞれの分野別の計画をしっかりと読み、社会教育は何ができるのかを考えることが必要だと思います。また、子どもにやさしい環境をつくるということは、夏休みのイベントを実施すれば終わりということではありません。子どもにやさしい環境をつくるために、社会教育の立場では何ができるのか。それぞれの立場の人が、すべての政策目標を見ていくことが、横断的な取組につながるのだと思います。</p> <p>現在の見せ方は、予算との関係では分かりやすいと思います。一方で、見る側からすると、防災に関係する担当課、子どもに関係する担当課というように、担当分野ごとに分かれて見えてしまう面もあります。</p> <p>私自身、具体的な見せ方のアイデアがあるわけではありませんが、例えば「子どもにやさしいまちづくり」というテーマの成果指標を設定する場合には、非常に横断的な成果指標を持つことになると思います。そうした視点から、今後、見せ方について検討していただけるとありがたいです。そのように整理されることで、市民にもより分かりやすい案内ができるのではないかと感じています。</p>
<p>事務局 (政策企画課長)</p>	<p>ご指摘のとおり、さまざまな分野について、それぞれ関わる人が自分の分野だけでなく、他の分野のことも意識しながら事業を進めていくことは、とても大切だと考えています。</p> <p>現在は、政策体系をこのような形で計画の中に示していますが、今すぐに横断的な視点をどのように表現すればよいかについて、具体的な形をお示しすることは難しい状況です。しかし、ご指摘いただいた点を踏まえ、今後計画を作成していく中で、そうした横断的な視点が読み取れるような表現にできないか、研究・検討していきたいと考えています。</p> <p>また、今後整理した内容をお示しする中で、改めてご意見をいただければと思います。</p>
<p>中野委員</p>	<p>今回、人口ビジョンに関するさまざまなデータが示されました。率直に申し上げますと、例えば、新しいデータとして合計特殊出生率、生涯未婚割合、完結出生児数などが出てきたことで、少し難しさを感じたところがあります。</p>

	<p>私自身は鳥取県倉吉市の出身ですが、中学校・高校時代にこうした資料を見ていたかという、地域には関心があったものの、内容が難しく、なかなか手に取りにくかったという経験があります。そうした自分の経験を踏まえると、今回の総合振興計画についても、市としてデータを資料の後半に掲載するなど、工夫されていることは感じました。できるだけ多くの市民の皆さんに分かりやすく、手に取っていただきやすい形にしていくことが大切だと、改めて実感したところです。</p> <p>また、今回、県立大学生が転出抑制や転入促進の観点から、いくつかの箇所で大きく取り上げられていたと思います。</p> <p>現役生や卒業生が「帰ってきたくなる浜田」を考える上では、自分らしく、やりたいことにチャレンジできること、そしてそのチャレンジによって生活していけるかどうか、最終的に大きな課題になると思います。私自身もそのように感じています。</p> <p>入学当初は地元に戻りたいと思っていましたが、浜田で自分らしく、自分のやりたいことを実現させていただいているからこそ、浜田に恩返しをしたいという思いが出てきました。今は、浜田に関わっていきたいと思っています。一方で、実際にどう生活していくのか、どう暮らしていくのかという点には、非常に課題感を持っています。私の先輩や現役の同級生も、同じようなことを話しています。</p> <p>そのため、帰ってくる、あるいは残るという選択を考える際には、先ほども話がありましたが、愛着やつながりだけでは難しい部分があると思います。その点を考慮していただければと思いますし、意見として受け止めていただければと思います。</p> <p>また、先ほどの委員のご発言にもあったとおり、県立大学生も一人の市民です。安心・安全なまちづくりを進めていく上では、県立大学生も浜田市を構成する市民の一人として見ていただければと思います。</p>
<p>事務局 (政策企画課長)</p>	<p>先ほどの坪倉委員のご発言に対しても少しお答えしましたが、帰ってくる環境を整えるためには、当然、仕事や生活基盤が重要であると考えています。そのため、そうしたことが叶う環境整備については、しっかり考えていく必要があると認識しています。</p> <p>まさにご指摘のとおり、学生の皆さんが、今の浜田にないことにチャレンジしやすい環境をどうつくるかは重要です。例えば、市としてそうした挑戦をどのように応援していくのか、そのような施策も必要ではないかと、私個人としても感じています。そうした内容についても、計画に盛り込めればと考えています。</p> <p>また、県立大学生については、市外から入学される方が多い状況もあります。しかし、せっかく浜田の県立大学に来て学ばれた方々ですので、学ばれた知識や、4年間の生活の中で持たれた浜田への愛着も含めて、浜田に残り、働き、定住していただくという視点は非常に重要だと思っています。</p> <p>その意味でも、県立大学生を一人の市民として捉え、浜田でどのように活躍していただけるか、そのための環境整備をどのように進めていくかは重要です。そうした点を計画の中で表現できればと考えています。</p>

<p>浅津委員</p>	<p>先ほどから、「女性へのプレッシャー」という言葉が何度か出ていますが、やはり、どれだけ表現をやわらかくしても、「出生率」という言葉が出てくると、若い女性は必ずプレッシャーに感じるのではないかと思います。</p> <p>一方で、先ほどお話があったように、地域に住んでいる間に浜田市に愛着を持ってもらうことは、とても大切だと思います。それは、自分ごととして捉えやすい目的でもあるのではないかと感じています。ただし、先ほど坪倉委員もおっしゃっていましたが、愛着だけでは帰ってこないというのも実態だと思います。そのため、今後の計画の中で、どちらの色合いを強く出していくのかは、非常に重要ではないかと思っています。また、子どもを主体にするまちづくりを考える際には、その横には多くの場合、母親の姿があります。したがって、女性の生きやすさという視点もしっかり盛り込まれるとよいと思います。</p>
<p>村井委員</p>	<p>「浜田に愛着」という言葉が、最近よく出ていると思います。</p> <p>現在、浜田市で生活し、子どもを育てている若い男性や女性、また家族を持っている方々の意見を聞いてみることも、一つの方法としてよいのではないかと思います。</p> <p>例えば、「なぜ浜田市で生活し、家建て、子どもを育てているのか」ということです。20代でも結婚して生活している方はおられますので、そうした方々の意見を聞き、その内容を計画に盛り込んでいくことも一つの手ではないかと思っています。</p> <p>実際に、私の孫も浜田市で結婚し、生活しており、子どももいます。そうした若い世代がなぜ浜田市を選んだのか、浜田市を出たかったのか、それとも浜田市がよかったのかを聞いてみることは意味があると思います。浜田市に残っている、あるいは帰ってきている若い世代は、浜田市の何かよいところを見ているからこそ、浜田市で暮らしているのだと思います。また、その友人に対しても「浜田に帰ってこい」と声をかけているような話もあります。</p> <p>そうした若い世代の言葉を少しずつ取り上げていくことも、一つの方法ではないかと思っています。ぜひ検討してみてください。</p>
<p>事務局 (政策企画課長)</p>	<p>先ほど浅津委員からのご意見にもありましたが、女性へのプレッシャーについては、たとえどのような表現をしても、「出生数」や「出生率」といった言葉が出ることで、どうしてもそのように受け止められてしまう面があると認識しています。</p> <p>一方で、目標値等を示しながら、どのような取組を進めていくのかを示す必要もあると考えています。どのような表現であれば受け入れていただきやすいのか、文言の面も含めて検討した上で、改めてお示ししたいと考えています。</p> <p>また、村井委員からのご意見の、若い世代や、浜田市に残っておられる方の意見を聞くことについては、全体スケジュールの中でもご説明しているとおり、子どもワークショップを予定しています。子どもから大学生までの方々に集まっただき、その中で、そうした意見も伺えればと考えています。さらに、市民アンケートの中でも、そうした声を拾えるよう、設問を検討しているところです。</p> <p>今後、若い世代の方々がどのように考えておられるのかをしっかりと確認した上で、計画書の中にどのように反映できるか検討していきたいと考えています。</p>

堀越委員	<p>先ほどからUターンに関するお話が出ていますが、議論の中では、若年層をターゲットとした話が多いように感じています。</p> <p>私は、親の介護や定年退職をきっかけに、熟年層としてUターンしたばかりです。若年層にこだわりすぎると、人口の多い高齢者や熟年層のUターンが、少し置き去りになってしまうように感じます。また、IターンやJターンについては、ターゲットとしては確かに難しい部分もあるかもしれませんが、しかし、現実には、私の周りにもIターンの方はおられますし、Jターンの方もおられます。配偶者について浜田市にIターンしてきた方も、よく存じ上げています。そのため、先ほどの委員のご意見にもあったように、実際にそうした方々の意見を聞いてみるのが大切ではないかと思えます。帰ってくる前と帰ってきた後で、どのような変化があったのか、どのような課題があったのかを聞くことは有効だと思います。</p> <p>また、他府県で移住・定住を推進し、実際に成果を上げている地域の取組や意見も参考にしながら、それらを幅広く施策に織り込んでいくことが望ましいのではないかと考えます。転入促進については、若年層だけではなく、もう少し幅広い年代を対象とした施策も検討いただければと思います。</p>
事務局 (政策企画課長)	<p>Uターンや、若年層に限らない視点についても、今後検討していきたいと考えています。</p> <p>ただし、今回お示ししたシミュレーション等にもありますように、浜田市では、特に大学進学後から就職にあたる年代の転出が最も多い状況にあります。これは、他の市町村でも同様の傾向があると思えます。そのため、全体的な視点を持ちながらも、どこに重点を置いて施策を考えていくかということは、まず4年間の前期基本計画を検討する上で必要な視点ではないかと考えています。</p> <p>今後、例えば若年層の転出抑制・還流促進にまず重点的に取り組むという整理を示すことはあるかもしれませんが、全体的な視点を踏まえ、幅広い年代を対象とした施策についても考えていきたいと思えます。</p>
井上委員	<p>現在、県立大学の2回生です。中野委員と同じく県外出身で、愛媛県出身です。</p> <p>私たちも、それぞれの地元から「帰ってきてほしい」「Uターンしてほしい」というアプローチを受けていると思えます。そうなったときに、私は愛媛に帰った方がよいのかなと思うこともありますし、県外から来ている同級生たちも、それぞれの地元に戻った方が、それぞれの自治体の計画には合っているのではないかと思うことがあるのではないかと感じています。そのような中で、自治体間で人材を取り合うような形になるのではなく、浜田市での大学生活でしか得られないものを、もう少し強調できるとよいのではないかと感じています。</p> <p>例えば、私自身も愛媛に時々帰っていますが、ある意味では、自然と二拠点生活のように感じています。一方で、浜田市で大学生活を送っていても、住民票を移しているわけではなく、実家は愛媛にあります。そうした中でも、浜田市民の一員として、自分たちも浜田市民だと胸をはって名乗れるようなインセンティブや仕組みがあれば、私たちも浜田市民の一員として誇りを持てるのではないかと感じています。また、先ほども申し上げましたが、全国には浜田市出身の大学生が多</p>

	<p>くいると思います。そうした方々へのアプローチも、もっと行った方がよいのではないかと思います。</p> <p>例えば私の地元では、全国に転出していった人に対して、市の予算で年に2回、仕送りボックスのようなものを送っています。それを受け取った同級生たちが、Instagramなどで「届いたよ」とストーリーに投稿し、お互いに拡散し合っています。その様子を見ると、地元はいいなと感じます。私自身もそうしたものが届くことがあります。一人暮らしで不安を感じる大学生にとって、地元から市長のメッセージや手紙と一緒にそうしたものが届くと、地元がいつもそばにあるように感じられます。浜田市出身で全国にいる大学生にも、そうした感覚を持ってもらえるのではないかと思います。</p> <p>また、私自身、普段の浜田での学生生活を、周りにあまりよい形で伝えられていないと感じています。東京、大阪、京都などにいる同級生の様子を見ると、SNS上ではどうしてもそちらの方がきらきらして見え、自分は田舎に来てしまったのかなと思うところもあります。逆に、浜田のアジを食べたときには、浜田にはもっと自慢できるものがあるのではないかと感じました。一方で、県立大学生も、大学生ですのであまりお金に余裕があるわけではありません。浜田のアジのような、魅力を知っていてもなかなか食べる機会がないということもあると思います。そのため、浜田の大学生になったからこそ、そうした地域の魅力に触れられるような仕組みがあれば、もっと誇れる学生生活になるのではないかと思います。</p> <p>最後に、先ほど受け皿についてのお話があったと思います。これは、私自身も地元でそうした仕組みがあればよいと思っていることですが、県外の大学に進学している4年間の間に、地元での働き方を知ることができるインターンシップのようなものがあればよいのではないかと思います。</p> <p>例えば、浜田市で漁師として働くとはどういうことなのかを知ることができるインターンシップのようなものです。そうした機会が地元があれば、とてもよいと思います。</p> <p>「地元には働く場所がない」というのは、主観や思い込みである場合もあるのではないかと思います。実際には、働く受け皿があり、担い手不足や事業承継に困っている分野もあると思います。そのような仕事や地域の課題に、県外で大学生活を送る4年間の間に触れてもらう機会をつくることできれば、県外にいても浜田市のことを忘れずにいられるのではないかと思います。</p>
地域政策部長	<p>浜田市出身、あるいは島根県全体としても、県内の高校から都市部を中心とした大学に進学した学生に対して、情報発信をしていこうという取組は、実は始めているところではあります。</p> <p>今おっしゃられたとおりで、大学や学部、進路の関係で、一度市外・県外へ出ていくことは避けられない面があります。県内には島根大学や島根県立大学がありますが、学部も限られており、どうしても県外へ出ることは避けられない状況があります。その中で、浜田市に関心を持っていただくことが重要です。愛着だけではな</p>

	<p>く、さまざまな情報を届けること、また、先ほどお話のあったインターンシップなど、仕事に関する情報を知っていただく努力も必要だと考えています。</p> <p>ここまでさまざまなご議論をいただきました。例えば、女性に関すること、転入・転出に関することなどがありますが、基本的な考え方としては、それぞれの場面で一人ひとりの希望をかなえていくということだと考えています。移動の自由もありますし、女性に出産を強要するものでもありません。大学生の進路もさまざまです。その中で、目を向けていただく努力は必要ですし、出産に関心を持っていただくことも大切です。</p> <p>ただし、産みたいと思ったときに産むことができないという状況を何とかしていかなければなりません。また、浜田市に残ろう、住もうと思ったときに、仕事がない、住む場所の確保が難しいといった状況をできるだけつくらないようにする必要があります。そのような希望をかなえるための総合戦略、そして総合振興計画を目指していきたいと考えています。</p> <p>子どもたちに関しても、今後ご意見を伺っていくところですが、子どもたちが実際に何を見ているのか、将来に向けて、あるいは現在、どのようなことを考えているのか、どのような希望を持っているのかを聞き取ることが大切だと思っています。</p> <p>今後、アンケートやワークショップなど、さまざまな機会がありますので、そうした場面を活用しながら希望を伺いながら、その希望に応じていく努力をしていく必要があると考えています。自治体としてできる範囲には限りがありますが、その範囲の中で、そうした取組を進めていくべきだと考えています。</p>
丸山委員	<p>総合振興計画のイメージを見ると、これまでの浜田市の中心地を中心とした資料のように感じています。</p> <p>今後の計画の中、あるいは振り返りの中で、浜田市全体について地域別の分析や今後の対応方針などが示されるのかどうか、お聞きしたいと思います。</p>
事務局 (政策企画課長)	<p>地域別というのは、例えば旭地域、金城地域など、現在の5つの地域についてのことかと思えます。</p> <p>第2次総合振興計画の後期基本計画では、地域別計画という形で少し示させていただいていますので、第3次総合振興計画でも同様の形になるのかというご質問かと思えます。確かに、第2次総合振興計画ではそのように表現しています。ただし、現在お示ししている第3次総合振興計画の概要では、それぞれの地域ごとに個別の計画を設けることは、現時点では考えておりません。</p> <p>金城、旭、弥栄、三隅、そして中心部である浜田地域も含め、市全体を網羅する形で計画を作成できないか、現在事務局で検討しているところです。</p>
副市長	<p>おそらく、その点は旧自治区の方々にとって非常に重要なことだと思います。現状では、ただいま課長が説明しましたように、本計画の中では、これまで設けていたような地域別計画は、現時点では掲載しない方向で考えています。そうすると、やはり周辺地域の方々のご心配になられると思います。</p>

	<p>この点については、計画の中では「全市一体の浜田市」として整理しますが、当然ながら、この計画に基づく個別の事業については、毎年度の予算の中でしっかり対策を講じてまいります。個別の事業については、それぞれの地域の状況を支所から丁寧に吸い上げた上で、これまでどおり対応してまいります。</p> <p>地元に戻られましたら、そのように説明があったとお伝えいただければと思いますので、ご安心ください。</p>
<p>村岡副会長</p>	<p>おそらく、今日の全体の議論は、まずビジョンとして大きな目標を掲げ、その目標に対して各取組が合っているかどうかを整理していく必要がある、という話だと思っています。</p> <p>より大きな議論としては、どこか特定の世代が担う、あるいは背負ってしまうような言い方にならないようにする必要があるという点は、皆さんで共有されているのではないかと感じました。言い換えると、全世代で共有できる目標が必要であり、その目標をシンプルに表すものとして、人口という指標があるのだと思います。ただ、現在「人口4万人」という目標が示されていますが、「これでよいですか」と問われたときに、積極的に反対することも難しく、かといって積極的に賛成することも難しいと感じます。返事としては、「反対ではない」という意味での賛成に近いものになるのではないかと思います。</p> <p>それは、人口4万人という数字が、しかも20年後の将来を見据えたものとして示されているため、なかなか実感を持ちにくいからだと思います。各分野、各現場、各地域の皆さんが持ち帰ったときに、「では自分たちは何をするのか」というところまで、まだ少し見えにくい面があります。数字が大きく、また少し先の未来を示しているため、具体的な行動に分解しにくいという構造的な課題があるのではないかと感じています。</p> <p>ここからが意見ですが、総合振興計画の利用者は、第一義的には行政の皆さんだと思います。同時に、浜田市民の皆さんも、この計画の大きな利用者の一人だと思います。そう考えると、目標値に向かって「皆さんはどうしますか」ということを、市から問いかけてもよいのではないかと思います。</p> <p>今後、アクションプランとしてさまざまな施策が並んでくるとと思いますが、それぞれの現場に対して「皆さんはどうしますか」と問いかけることも、市としてのメッセージとして発信してよいのではないかと思います。これは非常にフェアな姿勢だと思いますし、みんなで取り組まなければ解決できない問題に向き合おうとする時に、市からオーダーを出してもよいのではないかと、客観的に聞いていて感じました。</p> <p>人口は、どこから引っ越してきてもらおうが、どれだけ生まれようが、人数としては増減します。増やすことができる可能性もあります。しかし、浜田市自体が変わっていなければ、単に人が増えたとしても意味がないのではないかと思います。</p> <p>仮に一時的に人が増えたとしても、浜田市が変わっていなければ、また減少に拍車がかかる可能性もあります。</p>

	<p>そういう意味で、人が増えるためには、自分たちの環境や、それぞれの持ち場を変えていく必要があるということを、シンプルなメッセージとして計画に入れてもよいのではないかと思いつながら聞いていました。</p>
<p>2 その他（次回審議会日程、事務連絡）</p>	
<p>事務局 （企画係長）</p>	<p>第2回の審議会日程については、7月15日（水）を予定していますのでよろしくお願い申し上げます。</p>
<p>▽閉 会</p>	
<p>林会長</p>	<p>以上をもちまして第2回議会を終了いたします。お疲れさまでした。</p>